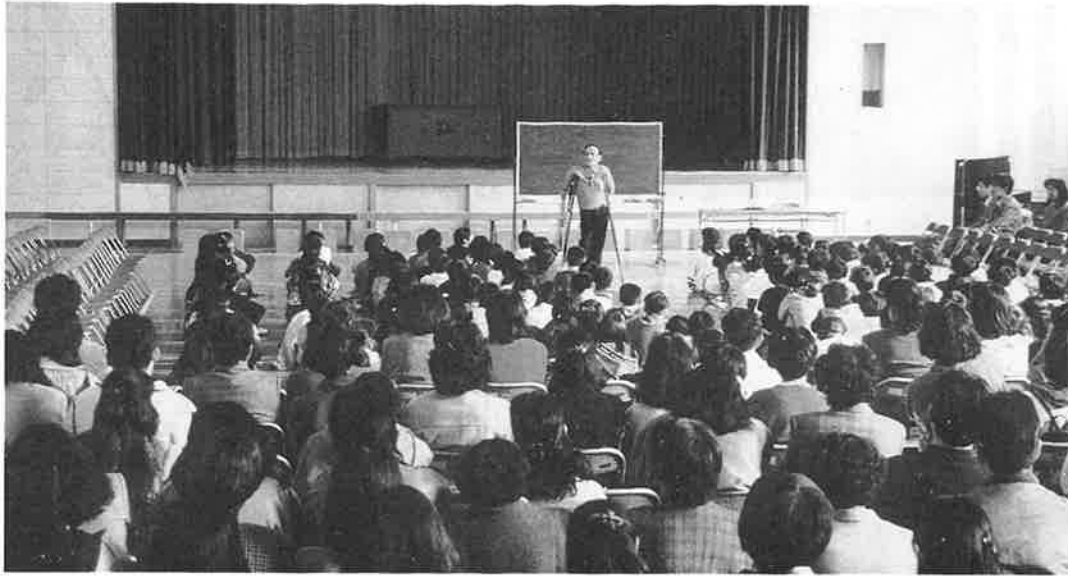


ちがうことこそ ばんざい



11月16日(土)に牧口一二(まきぐち いちじ)先生をお迎えして、講演会が開かれました。



編集発行
羽津北小学校
PTA 広報 印刷
(有)山洋印刷
第 59 号
平成8年12月18日発行



保護者と五、六年生の児童合わせて三百数十名の参加を得て行われた講演会。児童も一緒に参加するということで、牧口先生のご希望により、子どもたちに語りかける様子を、周りに座っている親にも聴いてもらうという形で始められました。

「今日、体の調子の悪い子、手あけて」と、子どもに問いかけインタビューをするという、飾らない和気あいあいとした雰囲気の中、すぐに会場全体が、牧口先生のお話へと引き込まれていきました。

先生は、幼い頃にポリオに感染され、その後遺症で体がご不自由になられたそうです。小さい頃は、歩けないため、はって外で遊び回り、どろんこになっていたこと、お父さんに買ってもらった松葉杖で、初めて歩いた時の感動など、これまでの生き様を、決して深刻ぶらずユーモアたっぷりにお話してくださいました。

子どもたちの中へ座り込んで、まさに全身で語りかけていただいた講演会。当たり前だと忘れがちなこと、大切なことに目を開かせていただき、生きる勇気を与えていただいたような気がします。



講演を聞いて思ったこと

五年二組 岩田 朋子

この講演で一番心に残っていることは、「人と人の心は、どうやって作るのか」ということです。誰でも一人ぼっちじゃさびしすぎます。そして、最後に言った「さあ、おもしろいこともええことちや」という言葉をずっと覚えておきたいです。また、牧口先生みたいに私もたくさん友達をつくらって、いろんな人との心をつくりたいです。

講演会の感想

六年一組 後藤 真希

ほくは、牧口さんがこうやって楽しく生きているのも、牧口さんのお母さんがいたからだと思う。だって、牧口さんが、どろんこになって帰ってきた時も、普通なり、「そんなによごしちゃってー」と言うはずなのに、牧口さんのお母さんは、むしろ喜んでた。その温かさがなかったら、今頃こんな立派な人には育ってなかったろう。



陶芸教室

楽しかったひととき
文教部副部长 森 裕子

文教部主催の陶芸教室が6月29日と7月6日に行なわれ講師には教頭先生にお世話になりました。私達親子は初めての参加でした。始めに何を作りたいかイメージをして、大きさ形などを決めます。焼くと10%〜15%小さくなる事を頭に置き、まず土に空気が入らない様やわらかくこねます。初めて目にする器具ばかりで子供達は珍らしそうに使い、次々に灰皿・コップなど作っていきました。子供達も私達も世界でひとつしかない作品を作る事ができ大変うれしく思っています。2ヶ月後焼き上がった作品を手にした時の感動は今でも思い出されるほど素晴らしい作品ばかりでした。
教頭先生を始め諸先生方には大変お世話になりました。



楽しかったかけっこ

二年二組 近藤彩乃

九月二十一日、わたしは、運動場で、運動会をしました。一番心に残ったのは、ときようぞうです。みんなが一人一人の力を出して走っていてすごかったです。まず、男子が走りました。女子もすぐにはじまります。わたしは心ぞうがドキドキしてなかなか止まらなかつたです。

わたしの番がきました。とてもはすかしかつたです。八十メートルもあり、長かつたので、さいしよは八いだつたのが、四い、五いと下がつて五いでした。

お昼に、おとうさんが、ほめてくれてとてもうれしかつたです。つかれたけど、みんながんばつたやればできるんだね。

ゆずれないねがい

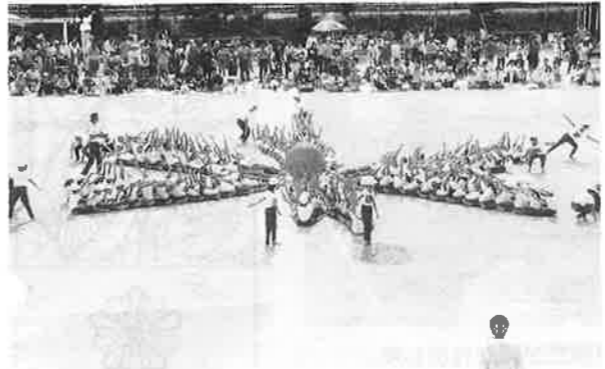
三年三組 岡田奈千

ダンスの入場の音楽が、なり始めました。わたしは、ドキドキしてぎました。むねの前で、ボンボ

ンをふりました。手が、くすぶつたかつたけど、がまんしました。右手からふり出しました。わたしは、もうあせが出ました。

そして、いよいよゆずれないねがいの音楽がなり始めました。たてひざをして、おぼえを、とても左ひざがいたかつたです。

そして、始めました。なぜかドキドキしてました。わたしは心の中で、「どうか、間ちがえませんように。」と思ひました。どん歌が終わつていきます。そして、終わりました。わたしは、「早くいなあ。もう終わつたんだ。」と思ひました。今思うと、何分もたつてないよりに思ひました。なぜか終わつた後に、ドキドキしてました。わたしは、じぶん、「へんなの。」と心の中で言ひました。



自然教室

十月十八、十九日、五年生の自然教室が行われました。天候に恵まれ、宮妻峽へのハイキング、野外炊事、マンボ(瀬戸用水)探検、キャンプファイヤー、ナイトハイキング、オリエンテーリングなど予定していた計画をすべて実施することができました。

宮妻峽での野外炊事では、運んできた石をうまく組んでかまどを作り、自然の中でおいしい炊き込みごはんを食べました。まっ暗な冷たい水の流れるトンネルの中を懐中電灯を照らしながら、班ごとにバシャバシャと探検したマンボは子ども達には大好評でした。

みんなと協力した野外炊事

五年一組 松永卓也

ぼくたちは、宮妻峽に一番早く着きました。女子がお米を洗っている間に、悠起君が大きな石を運び、ぼくがかまどを作りました。自分でもうまく作れたなと思つていたら、先生たちに、「このかまど、だれが作ったの? うまいね。」と言われ、とてもうれしかつたです。まず、火をおこして、お米をたいて、「ごはんを盛りつけて、おかずもおいでできあがり。ぼくたちの班に入つてくれた樋口先生もこれ、めちやくちやくまいやん。」と

言つてくれました。ぼくは、心の中がうまくできてよかつたなと思ひました。



「ウモリ」

五年三組 中山 亮

宮妻峽の帰り道、マンボに行きました。農家の人にたのんで、ピニールハウスの横の道を通りました。ぼくは、マンボつてどんな洞くつなだらう、顔や頭をぶついたらいいだろうな、と思ひながら歩いていました。山道を下つて、マンボに入りました。懐中電灯をつけて、歩きました。「いて。」と言つて天井を見上げました。「ウモリがいました。後ろの友美ちゃんに見せると「キヤー。」と言つてきました。「ウモリは、目が小さくてかわいかつたです。少し歩くと、ものすごく低い所を通らなきゃいけない。ぬれたらどうしよう」と、みんなが通りました。出口に

出た時は、外は明るいなと思ひました。

初めてのマンボ

五年二組 伊藤紗矢香

一番最初に、マンボに入った時は、すごく冷たくて、気持ちよかつたです。だんだん入つていくと、前が見えないほど暗く、心細くなつたが、クラスの子が、「ウーマンボウ」と言つて、みんなを笑わせてくれたり、歌を歌つたりしながら行つたので、心強くなりました。ところが、ころころ低くなつたり、急に高くなつたりするので、頭をうつて、すごく痛かつたです。こわかつたけど、もう一回入りたいなと思ひました。



たてわりしゅうかい



みんなが、楽しみにしていた遠足が雨の為に止になつたので、今回は時間をたくさんとつて、たてわり学級との遊びを楽しみました。



たのびかごうえんへいした

一年三組 もり ひろえ

たのびかごうえんへい、おねえさんといきました。たのびかごうえんへいしたら、なつそくさかさをのぼつてすべりました。

そして、おねえさんが、ごんぐりを、ひろいのにこつていったので、いっしょにいきました。

山のなかにはいってさかさを、のぼつたりするのでこわかつたです。おねえさんが「だいいいぶ。」といつてくわてやさいいおねえさんでした。ごんぐりは、あまりたれなかつたけど、おねえさんがお

おきいごんぐりをくれたのでよかつたです。かえるときにおねえさんといっしょにかえれなかつたからいやだなとおもひました。またいきたいです。

くちやくちやくたんけん

四年二組 稲増美果

十一月二日は、たてわり遠足で、たのび山へ行きました。

一番心に残つたのは、自由時間の時二年生の子二人とわたしと友達でたんけんしたこと。雨がふつた次の日だったので、地面がくちやくちやくして、歩きにくかつたです。でもせつかく来たのもでたらないですみしました。落ちそうなのや、木の根っこが出てぼくぼくして、すべつてころぼくすべつてころわかつたです。急にいき止まりになつたので反対の道に行きました。山のてつぺんに行つてしまいました。下におりる時は、かいたんがすつと続いていて、とてもつかれました。でもやつとつけた遠足でした。



楽しかつた修学旅行

法隆寺→奈良公園→清水寺→旅館
→新京極→三十三間堂→二条城
→金閣寺→東映太秦映画村→学校



思い出の奈良公園

六年一組 水谷茂貴

一番の思い出は大仏殿です。まず門で待つていたのは金剛力士像でした。ぼくは、あの大きさにおどろいた。今にも動きだしそつなリアルな像だつた。

そして、大仏殿に行く前に、中から大仏の体がちよつと見えた。その時は、大したことがないと思つていたが、中に入つたら大仏がどつしりとすわつていた。ぼくはその時ぼう然としていた。大仏の背中には、小さい仏像がいっぱいいた。周りには、またでかいのが

心に残つた東大寺

六年二組 瀧本 彩

わたしが、修学旅行で一番心に残つたのは東大寺です。

東大寺は、はばが約五十七メートルもあり、まずその大きさに圧倒されました。中に入つて見ると大きな大きな大仏が目前にあり、なんだか天井につきそつなぐらひの高さにびっくりしました。私が想像してはいたよりはるかに大きく背も高かつたです。大仏の鼻と同じ大きさの柱の穴に幼ち園の子どもたちがくづつて



いたので、私もへりたと思つたけど、幼ち園の子がいてはすかつたのでやめてしまいました。それから大仏や東大寺の写真を班の子たちとりました。

そして南大門には運慶・快慶が作った金剛力士像がありました。とても大きく迫力があり、わたしはその像からなかなか目がはなせませんでした。わたしは思わす、「わあ、すごいでかい!」と、さげんてしまいました。両方の像は、とてもこわい顔をしていて今にも動き出しそつに迫つてくる感じがしました。でも思つたよりすつと大きかつた東大寺の大仏がわたしの一番の思い出です。



給食委員会



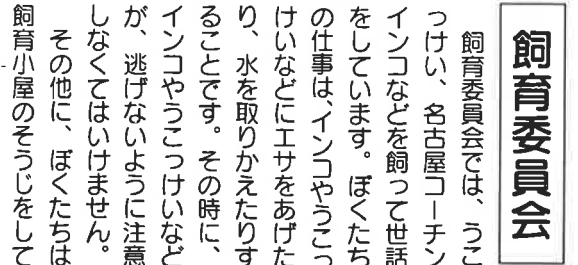
給食委員会は、食器の後片付けの様子、食べ残しの様子を、週一回各クラスを回って点検しています。お皿やスプーンが整とんざれてないと、給食のおばさんが洗う時に手間がかかるからです。また牛乳パックなどが小さくたたまれてないとごみの量がすごく多くなってしまうからです。今年各地でO-157が発生したので、給食のおばさんは、調理に大変気を遣って来ています。私達もていねいに手を洗う事、清潔に配膳する事などに、以前より気をつけるようになりました。

美化委員会



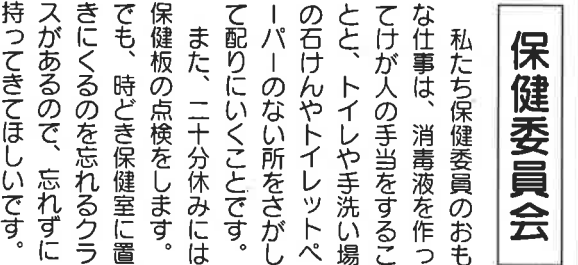
美化委員会では、週一回、清掃後の様子やそうじ道具の後片付けについて点検活動をしています。また後期は、ポスターチームとビデオチームに分かれて月に一回活動をしています。ポスターチームは、そうじの手順などのポスターを作っています。ビデオチームは、トイレのげたの並べ方やそうじ道具の使い方などのビデオを製作しています。二期期の生活目標は、そうじをきちんとしようです。学校がきれいになるようにがんばりましょう。

飼育委員会



飼育委員会では、うごっけい、名古屋コーチン、インコなどを飼って世話をしています。ほくたちの仕事は、インコやうごっけいなどにエサをあげたり、水を取りかえたりすることです。その時に、インコやうごっけいなどが、逃げないように注意しながらいけません。その他に、ほくたちは飼育小屋のそうじをしています。そして、うごっけいなどのふんは、床にべったりとついていて、ちりとりで床をこすらないと、とれません。ほくたちは、ふんのくさきにも負けずがんばっています。

保健委員会



私たち保健委員のおもな仕事は、消毒液を作って人がの手当をするところ、トイレや手洗い場の石けんやトイレットペーパーのない所をさがして配りにいくことです。また、二十分休みには保健板の点検をします。でも、時どき保健室に置きにくるのを忘れるウラスがあるので、忘れずに持ってきてほしいです。これからも私は保健委員として熱があったり、けがをした人たちの手あてを一生けん命したいと思っています。特に小さい子たちは話しかけながらするのが大切ななと思っています。

ほくたち・わたしたちの委員会 Part 2

栽培委員会



私たちが栽培委員会は、学級園の花だんや学校の玄関にあるプランターの世話をしています。当番の日には朝と帰りに水やりをしています。今年は、フラワープラボーコンクールに応募し、秋の審査では奨励賞をいただく事ができました。今は来年の春に向けて、パンジーやノースポール、そしてビオラの種をまいて、その苗を一生けん命育てているところです。もう少ししたらポットの苗を花だんやプランターに移植します。春にはきれいな花がいっぱい咲くようにがんばって花の世話をします。

掲示委員会



私達掲示委員会は、週一回はポスターをはりかえます。その時ポスターがうまくはがせないときやはいれないときもあります。あまり北校舎の方へは、行かないかもしれませんが、でも、掲示板に貼ってあるポスターがとれかかっていたら近くにとめてある画びょうでとめて下さい。また、少しでもいいですからたまにはいろいろなポスターもあるのを見に来て下さい。

編集後記

協力頂きました皆様ありがとうございました。